

埼葛北・北埼玉専門職連携推進会議 事例検討会「認知症の方への支援」報告書

1.事例検討会の概要

平成30年7月11日、市民プラザかぞ（加須市）にて、平成30年度第1回事例検討会を実施した。今回は事例検討会として、「認知症の方への支援」をテーマとし、参加者32名とともに検討を行った。事例は、居宅介護支援事業所と地域包括支援センターより提供してもらい、1事例60分とし、概要説明・アセスメント・プランニングの順に進行した。

事例提供者は、【事例1】として鶴寿荘 居宅介護支援事業所 山崎ケアマネジャー、【事例2】として行田市地域包括支援センター緑風苑 山崎相談員より提供していただいた。

アドバイザーとして埼玉医科大学保健医療学部 加藤巳佐子様にお越しいただき、貴重なご意見をいただいた。

2.事例検討会の流れ

事例検討会の流れについて、以下の流れとした。

- ①事例提供者に簡単な概要説明と、相談事項について述べる（10分）
 - ②参加者とともに、1人1問ずつ事例提供者に聞きたいことを確認しアセスメントを完成させる（20分）
 - ③アセスメントと相談事より手立てを参加者に1人1つ、プランを提案する（20分）
 - ④まとめとアドバイザーによるコメント（10分）
- ①～④までの工程を、コーディネーターの進行により、書記（2名）がホワイトボードにアセスメント及びプランを書き出していく方式とした。

3.事例検討

【事例1】介護度4、82歳、男性、妻と二人暮らし。前頭側頭型認知症の診断を受けている方。デイサービスを利用している時に暴力行為があったとのこと。意思疎通も難しい方で、山崎ケアマネジャーも支援の方向性などをどのようにアプローチしていいか悩んでいるという事例であった。参加者の意見を聞きながら、利用者の方の生活歴や様々な時代背景を生き抜いた男性の考え方、趣味などを理解しながら、病状を理解して寄り添うような支援が必要であることに気づいた事例となった。

【事例2】介護度4、82歳、男性。胃がん・認知症の病歴がある。単身生活で身寄りがないが、地域住民の見守りもあり生活をしてきた。熱中症を発症し入院。入院中に胃がんが発見され、自宅

での生活が困難となった。自宅で飼育していたペットが気に入り、自宅での生活を希望。自主退院を繰り返しながらも、医療機関によるフォローが継続された。決して快適ではないと思われる住環境でありながらも、住み慣れた自宅で生活を送ることができていた。事例検討を進めて行くと、様々な場面において地域住民による支援があったことが明らかになり、地域包括ケアシステムが機能した事例であった。支援の困難さはあったものの、在宅生活の継続への対応ができたことは良かったのではないかと意見でまとまった。

4.まとめ

今回、認知症の方の支援のテーマで2事例の検討会を実施した。

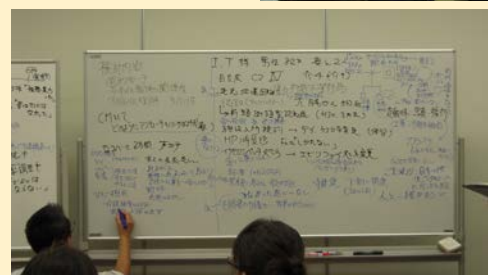
今回の事例検討会では、アセスメントの重要性について再認識した。対象者の過去や人生経験、家族構成、地域の支援などを多面的に深くアセスメントしていくことで、困難事例へのアプローチへの道筋やヒントを得られることを理解した。

また、アセスメントにおいては、ホワイトボードを使用して全体像を把握していくが、エコマップ・似顔絵・イラストなどの活用で、より具体的なイメージを持ちながら行っていくことの重要性に気づくことができた。

利用者に寄り添い、希望に沿うような支援の方法を模索していくことで、地域の中でより長く生活ができるためのアプローチができるのではないかと考えさせられた。

5.アンケート結果

今回の事例検討会の参加者に実施したアンケート結果については、別紙「アンケート結果」参照。



事例検討会の様子

平成 30 年度 第 1 回事例検討会「認知症の方への支援」 アンケート結果

参加者数； 32 名（事例提供者含む）

回答数；29

1. 職域について（重複あり）

	居宅介護 支援事業所	地域包括支 援センター	通所リハビリ	有料老人 ホーム	グループ ホーム	実習生（理 学療法士）	計
介護支援専門員	18	2					20
社会福祉士	1	3					4
看護職員		1					1
介護職員	1	1	1	1	1		5
学生						1	1
計	20	7	1	1	1	1	31

2. 今回の事例検討会について

大変よかった	よかった	どちらともいえない	つまらなかった	回答なし
19	8	0	0	2

（理由）

- ・多くの視点からの意見を聞くことができた。実践していきたい。
- ・ホワイトボードを使用し、30 人以上の参加者全員が発言する進行がよい。決まった書式に情報をまとめ、それを読み込む方法に疑問を持っていたので納得できた。紙ベースに残すよりも記憶に残り、学びが多い。
- ・全員の意見を聞く（発言する）事例検討会はあまり参加したことがありません。自由に発言できる、間違えかもしれないと思う事なく発言できる、とても良い体験ができました。
- ・自由な意見・発想が多く「刺激」を頂いた。
- ・その人らしさをいろいろな視点から見ることができた。
- ・多くの視点から意見を聞くことができ参考になった。今後のアセスメント・支援の参考にしたい。
- ・介護に関わる方々が一人一人に対してこんなに真剣に向き合い、「より良いサービスができたのでは？」と日々考えていることに心打たれました。
- ・自分では考えもしないような意見が聞けて良かった。参考に頑張ります。
- ・とても参考になった。チームで検討を重ね、本人の自己決定を主にしながら支援していきたいと思います。
- ・皆さんの意見を聞き、自分とは違う点が分かり良かった。
- ・自分自身のケースの振り返りができた。
- ・事例検討を通して、実際に実施されていること、あったら便利なこと等、多くのことを考える機会になった。
- ・普段の職場ではあまり見ることもない事例を知ることができ大変勉強になった。
- ・視野を広げて考えようと思いました。参考になりました。
- ・生活歴のアセスメント、本人との関わり、支援者のものぐさで図らないこと、改めて重要だと思いました。
- ・事例検討会は、司会進行の方のスキルによって質が違ってくるのだと思いました。とても有意義な時間が過ごせて良かったです。
- ・自分自身の業務の振り返りにもなった。いろいろなアイディア、考え方があって多角的にとらえる必要があると改めて感じた。
- ・自分の気づきをそのまま発表できる雰囲気が良かった。

3. 事例提供の希望；なし

4. 今後の企画への要望

- ・他市の保健師との交流会
- ・医療との交流
- ・アセスメント、話の聞き方など
- ・専門職についての理解を深める
- ・今後も継続してほしい